令和７年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名：　常創戦略課　　シート No.：　120　　作成日：　2026.9/25

①　総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

			事務事業の背景・目的	事務事業の目標
後期基本計画	施策の大綱	Ⅶ行財政運営の効率化	令和５年度からスタートした「じょうそう未来創生プラン後期基本計画」の目標を令和９年度で達成するために、課題に取り組んでいます。 行政に求められる役割が多様化・複雑化する中で、引き続き行政サービスを安定的に提供し続けるためには、限られた経営資源を最大限に活かせるよう事務事業を不断に見直すこと、効果的な予算編成を行うことで、持続可能なまちづくりを進める必要があります。 そのためには、最小の経費で最大の効果が得られるよう事務の効率化や事務事業の見直し等を図るためのＰＤＣＡサイクルを構築し、行政改革を続けていかなければなりません。	総合計画の理解促進を図り、市の経営方針を基に、市が重点的に取り組むべき施策の方向性を各部課へ示すことで、効果的な予算検討・予算編成に繋げます。 政策の実施・予算検討・人事組織に関するＰＤＣＡサイクルの仕組みをつくり、調書等の作成にあたる職員の理解（取組の目的や意図）を促し、職員の意識改革及び政策形成・実施能力の向上を図り、市民満足度の向上につながる取組を継続します。 また、限りある財源の中で、受益者負担の適正化を図るために、近年の社会情勢を考慮し、使用料・手数料の全庁的な見直しを行います。
	施策の目標	１市民満足度の高い行財政運営を進める		
	施策	１行政運営		
	施策内容	行政運営の適正化		
その他，根拠法令及び分野別計画等		じょうそう未来創生プラン後期基本計画		
事務事業名		**行政運営の適正化**		

②　アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）　　③　インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			Ｒ７予算額	Ｒ７決算額
活動名・事業名（対象年）	Ｒ７活動・事業内容	指標（単位）	Ｒ７目標値	Ｒ８目標値		
			Ｒ７実績値	Ｒ９目標値		
総合計画に関する職員研修（Ｒ７・８）	職員を対象に市の総合計画への理解を深め、日々の自らの業務に活かせるよう説明と対話を行います。	研修受講者（人）	―	―	0 千円	千円
			50	―		
予算検討に係る三役ヒアリング（Ｒ７・８・９）	進捗状況や課題を整理共有する事業レビューの仕組を構築し，各担当部署と三役を含む経営層とのすり合わせを行い、効果的な予算編成・施策の実施に繋げます。	対象となる重点・新規・拡充事業数（事業）	50	―	0 千円	千円
			95	―		
庁議・部課長会議の実施（Ｒ７・８・９）	総合計画に掲げる各施策の実施に向け、庁内における調整を円滑に行うため、各会議を実施します。	庁議開催数（回）	18	18	0 千円	千円
			15	18		
行政評価システムの改善と実施（Ｒ７・８・９）	各担当部署が自らの事務事業の総点検を行い、それらを次年度予算の検討等につながる仕組みづくりを行います。	点検を実施した事務事業数（事務事業）	143	―	0 千円	千円
			143	―		
総合教育会議の実施（Ｒ７・８・９）	市長と教育委員会が一体となり、市の教育行政を実行していくために、教育委員の意見を効果的に反映できる仕組みづくりを行います。	会議開催数（回）	2	2	0 千円	千円
			1	2		
使用料・手数料の全庁的見直し（Ｒ７・８）	平成 29 年度に策定した算定基準に基づき、近年の物価高騰などの社会情勢を考慮し、改めて算定を行い、受益者負担の適正化に向けた検討を行います。	算定を行う使用料・手数料の数（使用料・手数料）	174	174	0 千円	千円
			0（着手 174）	―		
補助金の適正化（Ｒ７）	元気のみなもと補助金交付要綱に従い、市民団体等から交付申請がされた際に、市民と共に考える課からの要請により、庁内補助金審査会を開催し、補助金交付額を担当課へ答申します。	補助金申請件数（件）	―	―	0 千円	千円
			3	―		
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円

④　アウトカム（成果）

指標名	目標値	Ｒ７実績値
重点・新規・拡充事業のうち令和８年度に予算化された事業数	50 事業（Ｒ９）	47 事業
行政・まちづくり分野の市民満足度	18%（Ｒ９）	18%（Ｒ４調査）

⑤　点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
今年度より、６月から７月にかけて、前年度末から新年度当初にかけて実施した行政評価を基に、当該年度の事業の計画及び進捗、次年度に向けての各部課の事業の方向性を三役及び経営層の想いとすり合わせるための事業レビューを実施しました。それを踏まえて、方針を整理し、次年度予算検討へとつながる仕組みを作ることが出来ました。 事業レビューを通じて、業務の改善が図られるよう、内容は引き続き改善しながら実施していきたいと考えます。	□コスト	☒活動	□成果	□その他
	今後の方向性			
	『行政評価→事業レビュー→骨太の方針→実施計画調書→予算パッケージ検討→予算編成→政策パッケージ取りまとめ→行政評価』という一連の流れができたので、これをより強化していくため、次年度から策定する第三次常総市総合計画との連動を図っていきたいと考えます。			